

神奈川県原水協通信

2018年県民連対県交渉(11.7)

核も基地もない神奈川県を



交渉の主な内容・特徴

- ◆ 渉外知事会(米軍基地が所在する15都道府県の知事で構成)の会長としての黒岩知事のこれまでの活動を評価しつつ、一層のリーダーシップ発揮を要請。全 国知事会の日米地位協定の抜本改定などの「提言」採択を前進させるためにも全国渉外知事会会長の役割発揮を要請。引き続き努力すると回答。
- ◆ 神奈川県内米軍基地の問題について
 - * 基地の返還が報道された根岸住宅については、現在確認中とのこと、
 - * 県内基地関係9市で構成する「神奈川県基地関係県市連絡協議会(県市協)」の活動について集中的に交渉。活動の年間サイクル、国回答を口頭から文書回答へ、個別要求の扱いなどの改善を要求したことに説明的回答。
 - * キャンプ座間(弾薬保管)・相模補給廠(ミサイル司令部)・厚木基地(オスプレイ)の課題についても交渉が行われ、情報の共有の必要性など確認。
 - * 県内の米軍基地の機能強化についても交渉課題となり、基地機能強化の認識、県民生活に負担が生じることを、県として「注視」するとの回答。
- ◆ 非核平和行政推進について
 - * 核兵器禁止条約の発効のため、県知事として国への「意見書」を提出について回答ができず、県議会の請願が継続審議と回答。今後課題残す。
 - * 非核平和行政についても、予算増など、前向きな回答はなかった。
 - * この分野の交渉が例年最後で時間切れとなることが多く、今後の課題。

11月7日、2018年のいよいよとくらしと雇用・営業を守る神奈川県・市民実行委員会(県民連絡会)の平和・基地・国際連帯分野の対県交渉が、県当局8人、県民連20人が参加して行われました。菊谷節夫交渉団々長、県側の柏木剛政策局企画調整担当課長がそれぞれ挨拶。交渉は、午前10時から12時までの2時間精力的に行われました。

この交渉は、8月に提出した45項目の要求について、10月文書回答を得て、絞った13項目の再質問・要望表明などが行われました。交渉結果は満足できないが、県民の声を届け続けることの意義は大きい交渉でした。

今年も、福島原発被災者にカレンダーを届けます！

笠木事務局長、13日～14日、浪江町、双葉町、いわき市の小・中・高校に届けに行ってきます。

毎年、皆さんから寄せられたカレンダー募金で、東日本大震災原発事故被災地に「ちひろカレンダー」を贈呈していますが、今年も贈呈運動を行っています。

まだ、募金はわずかししか届いてませんが、今後に期待し、11月13日～14日に、笠木事務局長が、被災地の学校を中心に、ちひろカレンダー届けに行きます。

これからが「募金活動」の本番です。チラシや募金袋を使って多くの人に訴えて下さい。被災地の厳しさは子どもたちに重くのしかかっています。ご支援よろしくお願いします。



幼・小・中学校へ(昨年)



昨年、中学校に贈呈したとき